

広告

宇部興産中央病院医療最前線

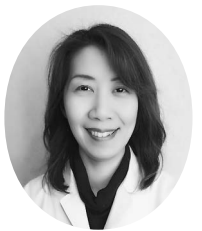
— シリーズ 患者さんに寄り添う専門医療 ⑮ —



# 慢性頭痛について

## 頭痛薬の飲み過ぎに

要注意！



神経内科  
部長  
多田 由紀子

専門分野 ● 神経内科疾患  
資格 ● 日本神経学会専門医・指導医  
● 日本内科学会認定医 ● 日本頭痛学会専門医・指導医  
学会 ● 日本神経学会 ● 日本内科学会 ● 日本神経治療学会  
● 日本頭痛学会 ● 日本脳卒中学会

### 頭痛もちの頭痛

頭痛の原因は、風邪や二日酔いなどのときなど誰でも経験するものから、くも膜下出血や脳腫瘍など重大な病気の一症状である場合など様々です。その中で、検査をしても異常がないのに頭痛を繰り返す慢性頭痛、いわゆる「頭痛もち」の割合は、15歳以上の日本人の10人に4人と云われ、その代表が片頭痛と緊張型頭痛です。『緊張型頭痛』は、パソコン操作や運転など同じ姿勢を長く続けることや精神的なストレスが誘因となり、首筋から後頭部や頭全体がしめつけられるように痛みますが、日常生活には影響なく、軽く体を動かすとよくなることもあります。一方、『片頭痛』は頭の片側や両側、または眼の奥がズキンズキンと脈打つように痛み、吐き気や嘔吐を伴うことも多く、家事や仕事に支障をきたすほどのつらい頭痛です。生活のリズムの変化やストレスからの解放、生理などが誘因となつて、月に1〜2回、多い人では週に1〜2回の頻度で起こります。数時間から2〜3日持続したのちに治まるため、痛むときだけ市販の鎮痛薬を飲んで、病院を受診せずに我慢してしまう人も少なくありません。

### 薬の飲み過ぎで起こる頭痛

もともと頭痛もちの人が、「鎮痛薬を飲んで頭痛が治まるのに、毎日のように頭痛が痛い…」と悩むよう

になったら『薬剤の使用過多による頭痛(薬物乱用頭痛)』に陥っている可能性があります。  
① 1か月に15日以上頭痛がある、② 頭痛薬を月に10日以上服用している(3か月を超えて)、③ 以前より頭痛薬の効きが悪く、頭痛がひどくなってきた…といった症状が当てはまる場合は、専門的な治療が必要です。痛みへの不安から「今日は大切な用事があるから、念のために…」などと、早めに予防的に鎮痛薬を頻繁に飲んでいけると、次第に脳が痛みに敏感になり、かえって頭痛をこじらせてしまうのです。原因として多いのは市販の鎮痛薬の飲み過ぎですが、医師から処方された消炎鎮痛薬や片頭痛発作時の治療薬であるトリプタン系薬剤の使用過多によっても起こります。治療は、原因となつた鎮痛薬を思い切つてやめることが基本です。中止後、反動で頭痛や吐き気がひどくなる場合がありますが、痛みを軽減させる予防薬や原因薬剤以外の鎮痛薬で対処し、通常、1〜2週間すると、日々悩まされていた頭痛の頻度も減つて楽になります。

頑固な頭痛にお悩みの方は、神経内科や脳外科の頭痛専門医にご相談ください。



宇部興産中央病院は**地域医療支援病院**です



〒755-0151 山口県宇部市大字西岐波750番地  
地域連携室 ☎0836-51-9421